

平成31年度及び令和元年度

事業報告書

(みどりが丘・おりた・ふたば・こじか)

社会福祉法人 青陵会

平成 31 年度及び令和元年度事業報告

社会福祉法人 青陵会

I 『みどりが丘保育園』事業報告

1 保育園の運営

園児数

定員：60名

	乳児	1・2歳児	3歳児	以上児	計	率
4月	1	17	14	23	55	92%
5月	2	17	14	23	56	93%
6月	5	18	14	23	60	100%
7月	4	18	14	23	59	98%
8月	5	18	14	23	60	100%
9月	5	18	14	25	62	103%
10月	5	18	14	25	62	103%
11月	5	18	14	25	62	103%
12月	6	18	14	25	63	105%
1月	7	18	13	25	63	105%
2月	8	18	13	25	64	107%
3月	8	18	13	25	64	107%
延べ人数	61	214	165	290	730	101%
構成率	8%	29%	23%	40%	100%	

職員数

3月末現在最低基準（括弧内は現員）

基準 保育士	90人 以下加配	主任 保育士	標準時間 認定保育	一時 保育	障がい児 保育	療育 加算	調理員	事務	施設長	処遇 改善	合計
7 (7)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	19 (19)

(1) 健康管理

○ 内科検診

平成 31 年 4 月 2 日 しみずこども医院に於いて実施（新入園児対象）

平成 31 年 5 月 22 日 園に於いて実施（清水医師）

平成 31 年 11 月 20 日 園に於いて実施（清水医師）

○ 歯科検診

平成 31 年 6 月 3 日 園に於いて実施（丸山医師）

(2) 栄養管理

- ・楽しく食事をする。
 - ・旬の食材を使って、季節感のあるおいしい給食。
 - ・食事を通して、味覚や食嗜好を育てる。
 - ・衛生管理に注意を払い、食中毒を起こさない。
 - ・生活の中での位置づけとして、保育との連携を図る。
 - ・保育現場と打ち合わせを行う（個別児童）
- 以上の計画であったが、いずれもよく達成できたと思う。

(3) 安全管理

避難訓練は毎月実施

通報訓練 年2回

総合訓練 年1回（11月7日）

職員の消火訓練は、毎月避難訓練時に実施

遊具の点検

(4) 保育

「健康で明るいこども」を園の目標にした

○ひよこ組（寺下、上野、池田、中野）

よく食べ・よく遊び・よく眠る

「表情豊かなこども」「探究心のあるこども」

この目標に向かい保育所保育指針を基本にして保育を行った

子どもの行動をできるだけ規制せず、保育士との人間的なつながりに
気を配り子どもが安心して過ごせるよう配慮した。

豊かな母子関係の助長のため、年3回の保護者懇談会を実施

また、安心して預けられるよう保護者の信頼、理解を得るよう努めた

○りす組（木下、海崎）

元気いっぱい のびのびと

「自分の思いで行動できるこども」

「豊かな感性を持ったこども」

「人の話を親しみを持って聞けるこども」

この目標に向かって保育所保育指針を基本にして子どもの主体性を大切に
保育を行った。保護者からの信頼は得られていると思われる。

○きりん組（岩井、宮前） ○ぞう組（里中、新町）

「思いやりのあるこども」

「自分の意思で行動できるこども」

「豊かな感性をもったこども」

「人の話を親しみを持って聞けるこども」

この目標に向け保育所保育指針を基本に保育を実施した。

3、4、5歳児の異年齢保育を活かし、思いやり、優しさなどの育成に努めた。

(5) クラス編成 (3月現在)

- ひよこ組 (0、1歳児) 18人 寺下 由衣、上野 勝子
池田 和香菜、中野 睦美
- りす組 (2歳児) 8人 木下 智子、海崎 友香
- きりん組 (3、4、5歳児) 19人 岩井 孝三、宮前 亜弥
- ぞう組 (3、4、5歳児) 19人 里中 李穂、新町 梓

(6) 特別保育

- 延長保育
保育士の超過勤務で対応
- 一時預かり事業
担当保育士 1名 (北平 希望)
- 障がい児保育事業
担当保育士 2名 (新町 梓、宮前 亜弥)

2 職員の処遇

(1) 健康管理

ヘルスサポートセンター鹿児島の巡回検診による (12月4日)

九州保健ラボラトリーによる検便

・全職員 毎月1回

(赤痢菌・サルモネラ菌・O-157・O-26・O-111)

・ノロウイルス検査 年1回

(2) 労務管理

青陵会就業規則による

(3) 研修

県、私保連、日保協、ポラリス等主催の研修会に参加

内部研修

週1回の職員会、園内研修、処遇会議

3 保護者との交流

親子遠足（4月20日）

保護者との懇談会（5月18日 9月13日、14日 2月15日、22日）

夕涼み会（7月20日）

親子運動会（10月13日）

生活発表会（12月7日）

- ・日頃の園生活の発表（写真）
- ・こどもの作品展示
- ・うた、遊戯の発表

4 保育設備

(1) 園舗

敷地	1,973.00 m ²
屋外遊戯場	1,330.114 m ²
建築面積	459.62 m ²
その他	80.00 m ²

(2) 設備・備品

木製複合遊具、すべり台、低鉄棒、ブランコ、土山、砂場2カ所
積み木、木製玩具、絵本、紙芝居 等

5 資金

運営費収入、補助金収入による 別紙決算資料

令和元年度事業報告及び収支決算書

社会福祉法人 青陵会

『おりた保育園』事業報告

I 保育園の運営

定員：60名

園児数	乳児	1・2歳児	3歳児	以上児	計	定員充足率
4月	2	22	14	23	61	101%
5月	2	24	14	25	65	108%
6月	2	24	14	25	65	108%
7月	3	24	14	25	66	110%
8月	3	24	14	25	66	110%
9月	4	25	14	25	68	113%
10月	6	25	14	25	70	116%
11月	6	25	14	25	70	116%
12月	7	25	14	25	71	118%
1月	7	25	14	25	71	118%
2月	7	25	14	25	71	118%
3月	7	24	14	25	70	116%
延べ	56	292	168	298	814	116%
構成率	7%	36%	20%	37%	100%	113%

職員数（3月末現在）

	基準保育士	90以下加配	標準時間受入	主任保育士	一時保育	障がい児保育	調理員等	支援センター	園長	事務	処遇改善	療育	合計
基準	8人	1人	1人	1人	1人	2人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	22人
現員	8人	1人	1人	1人	1人	2人	3人	2人	1人	1人	1人	1人	23人

(1) 健康管理

○ 内科検診 しみずこどもクリニック

令和元年 4月 1日 新入園児を対象に実施

令和元年 6月 26日 清水医師により園に於いて実施

令和元年 10月 30日 清水医師により園に於いて実施

○ 歯科検診 丸山歯科

令和元年 6月 15日 丸山医師により園に於いて実施

(2) 栄養管理

献立について

アレルギーに関する調査を行い、安心して食事提供できるようにした。

4月に嗜好調査を実施し、子どもたちが給食の時間を楽しみにできるような献立作りに繋げた。年度途中入所の子どもに対しても面談時実施した。

栄養価に優れた旬の食材料を取り入れることで季節感を出し、食に関して興味が持てるようにした。

衛生面について

発注先業者と連携をとり、安全な食材料を使用し、食中毒を起こさぬよう細心の注意を払った。

その他について

保護者との緊密な連携のもと、楽しい雰囲気の中で安心して食事ができるよう心がけた。

菜園での活動、調理保育など食をテーマにした保育を取り入れることで、食に対する興味が持てるようになった。

行事食

8月	七夕	—	鮭の炊き込み寿司、鶏のささみの梅肉和え、そうめん汁、スイカ、七夕ゼリー
9月	十五夜	—	さつまいもご飯、魚のかば焼き風、キャベツときゅうりの漬物、うずら卵のおぼろ汁、月見団子
12月	クリスマス	—	パセリピラフ、ローストチキン、コーンスープ、ミモザサラダ、クリスマスケーキ
	もちつき会	—	餅、豚汁、ぼんたん
1月	七草	—	七草雑炊
	鬼火	—	餅、さつまいも汁
2月	節分	—	煎り豆ご飯、いわしのかば焼き、とろろ昆布サラダけんちん汁（鶏肉）、大納言ケーキ
3月	ひなまつり	—	ちらし寿司、鶏肉の照り焼き、キャベツの梅ソース和え、いちご大福

(3) 安全管理

- ・避難訓練、消火訓練は毎月実施。通報訓練は年9回。
- ・ふたばとの合同避難訓練を11月13日に消防署立ち会いの基実施。

設備の点検

消防設備の点検 ……8月、2月—高尾野電設により実施

自主点検 3ヶ月に1回実施

設備・遊具の点検…自主点検毎月、年に1回業者による点検

(4) 保育

- ひよこ組 0～1歳児

「よく食べ よく眠り よく遊ぶ」

「表情豊かで探求心のあるこども」を目標とし、保育指針をガイドラインとして保育を行った。

応答的に関わることによって、情緒的な繋がりを持ち、安心感を与えられるようにした。

外界に対する興味・関心が育つよう、子どもの主体性を尊重して保育を行った。

豊かな母子関係の助長のため、保護者との連携を密にするよう心がけた。

- りす組 2歳児

「自分の思いで遊べる子ども」を目標とし、保育指針をガイドラインとして保育を行った。

- きりん組 3・4・5歳児

ぞう組 3・4・5歳児

「思いやりのある子ども」

「自分の意志で行動できる子ども」

「豊かな感性をもった子ども」

「人の話を親しみをもって聞ける子ども」を目標とし、保育指針をガイドラインとして、こどもの主体性を大切に保育を行った。

(5) クラス編成 (3月末現在)

ひよこ組 (0・1歳児) 18人 (跡上、嶺石、石井、井ノ下)

りす組 (2歳児) 13人 (上野、中村)

きりん組 (3・4・5歳児) 20人 (川端、長谷川)

ぞう組 (3・4・5歳児) 19人 (梶尾、福浦)

フリー (野崎、中村、前平、平川)

(6) 特別保育対策事業

○ 延長保育 18:00～19:00

保育士の超過勤務で対応

○ 一時預かり事業

担当保育士 1名 (野崎)

○ 障がい児保育事業

担当保育士 2名 (福浦、中村)

○ 子育て支援センター事業

担当保育士 2名 (松元、齊藤)

(7) 職員の処遇

1 健康診断

令和元年12月4日 ヘルスサポートセンターによりデイハウスふたば折多に於いて実施

検便

調理・調乳に携わる職員：毎月 第2木曜日

その他の職員：年間4回 (4, 7, 10, 1月 第2木曜日)

2 労務管理

青陵会就業規則によって管理

3 研修

県 保育連合会、阿久根市、ポラリス主催の研修会等に参加
内部研修

週1回の職員会・園内研修・処遇会議

(8) 入所児童処遇特別加算

職員を年間1,028時間配置

(9) 保護者との交流

親子遠足	4月27日 (水俣エコパーク)
夕涼み会	7月13日
親子運動会	10月13日
生活発表会	12月14日
餅つき会	12月20日
保護者懇談会	6月、11月、2月

II 保育設備

(1) 園舗

建築面積	751.33 m ²
(園舎	646.704 m ²)
(玄関ポーチ	15.079 m ²)
(外廊下	89.550 m ²)
屋外遊戯場	3142.73 m ²
敷地面積	7896.66 m ²

(2) 設備・備品

ブランコ 太鼓型雲梯 すべり台
木製遊具 屋内用すべり台
絵本 積木 ブロック 紙芝居

III 資金

通常経費は、委託費収入及び補助金収入による。
別紙決算資料

平成31年度及び令和元年度 ふたば事業報告

1 運営について

(1) H31・R1年度利用者数 ()内は定員、短期入所の月ごとの数字は延べ利用者数

月	生活介護 (18)	折多 就労B (14)	就労 移行 (6)	脇本 就労B (32)	合計 (70)	短期 入所 (1)	居宅 介護	共同生 活援助 (10)	短期入所 (空床利 用型) (6)
4月	21	11	4	39	75	2	7	6	5
5月	21	12	4	38	75	5	7	6	7
6月	20	12	5	38	75	2	7	6	10
7月	20	12	4	38	74	4	7	6	7
8月	20	13	3	38	74	34	7	6	38
9月	19	12	3	38	72	28	7	7	7
10月	19	12	3	36	70	26	7	6	11
11月	19	13	3	35	70	2	7	6	9
12月	19	13	3	35	70	4	7	6	7
1月	19	12	3	34	68	2	7	6	8
2月	19	12	3	34	68	6	7	6	7
3月	19	13	3	35	70	0	7	7	8
延べ利用 者数計	4,864	2,621	1,259	8,407	17,151	115	1,609	2,083	124

(2) 利用契約者の年齢構成 (令和2年3月31日現在)

区分(歳)	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
人数	3	27	17	10	11	3	4

(3) サービス提供の状況

デイハウスふたば折多は、日中活動の生活介護・就労継続支援B型のサービスを実施しており、他に居宅介護、短期入所(単独型)並びに日中一時支援、福祉ホームの事業を実施している。ふたば脇本では就労移行支援、就労継続支援B型の事業を実施していたが、就労移行支援については、利用者の減少と社会情勢等を考慮して令和2年度から休止したところである。

また、グループホームにおいては、共同生活援助サービスと空室を利用した短期入所(空床利用型)を実施している。

全体の利用契約者数は、ほぼ横ばい状態であり、日中活動の延べ利用者数は昨年と比較して延べ100人ほど減少しているが、共同生活援助が延べ100人ほど増加した。

なお、令和元年度までの事業内容は、下記のとおりである。

[ふたば脇本]

① 就労移行支援(定員6名)

一般企業等への就労を希望する人に、一定期間就労に必要な知識及び能力の向上のため必要な訓練を行う。

② 就労継続支援B型(定員32名)

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上

のために必要な訓練を行う。

[ふたば折多]

① 生活介護（定員18名）

常時介護を要する障害者に対し、入浴、排せつ及び食事等の介護その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生産能力の向上のために必要な援助を行う。

② 就労継続支援B型（定員14名）

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。

③ 短期入所（単独型：定員1名）

短期入所は、居宅においてその介護を行う者の疾病その他の理由により、施設等への短期間の入所を必要とする障害者に対して、入浴、排せつ及び食事の介護その他の必要な支援を行うものである。

なお、平成31年度・令和元年度の利用者数は、前頁の表のとおり延べ115名であった。

④ 居宅介護

居宅介護は、居宅において入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助を行うものである。

なお、平成31年度・令和元年度の利用者数は、前頁の表のとおり延べ1,609名であった。

[福祉ホームふたば]（定員7名）

福祉ホームは、家庭環境、住宅事情等の理由により居宅において生活することが困難な障害者に対し、低額な料金で居室その他の設備を利用させ、日常生活に必要な便宜を供与することにより、障害者の地域での自立した生活を支援することを目的とするものである。

福祉ホームの利用者数は、現在は7名で満室の利用となっている。

[グループホームふたば]

共同生活援助（定員10名）

共同生活援助は、地域で共同生活を営むのに支障のない障害者につき、主として夜間において、共同生活を営むべき住居において行われる相談その他の日常生活上の援助を行うものである。

定員は10人で、平成31年度・令和元年度は平均して6人程度が利用していた。グループホームの空室を利用した短期入所（空床利用型）は、月平均10日程度の利用がある。

[障がい者相談支援事業所ふたば]

相談支援の事業は、障がい者又は障がい児の保護者等から障害福祉サービスの利用に関する相談を受け、利用者等の意志及び人格を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう配慮した「サービス等利用計画」又は「障害児支援利用計画」を作成するものである。また、市町村からサービス利用の支給決定がなされた後、当該サービスが適切であるか一定期間継続してモニタリングし、サービス利用に関する利用者の意向その他の事情を勘案し、必要があれば計画の見直しを行い、関係者との連絡調整を行うことも相談支援の重要な事業である。

なお、平成31年度・令和元年度の相談支援の延べ件数は、以下の表のとおりである。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談回数	72	63	51	55	74	53	53	55	63	65	64	88	756
利用計画作成数	10	5	20	3	3	7	4	8	4	6	7	6	83
継続支援件数	18	16	16	22	24	22	19	16	16	29	22	24	213

(4) 職員数 令和2年3月末現在 合計35名（うち6名は非常勤）

ふたば折多職員配置

区分	管理者	看護職員	機能訓練指導員	職業指導員	生活支援員	居宅介護従事者	事務	施設長	合計
常勤換算数	1	2.8	0.2	1.0	6.2	2.5	2	1	16.7
配置基準	1	1.0	0.2	1.0	5.5	2.5	—	—	11.2

ふたば協本職員配置

区分	管理者	就労支援員	職業指導員	生活支援員	調理員	合計
常勤換算数	1	1	2.0	4.2	2.0	10.2
配置基準	1	1	2.0	4.2	—	8.2

グループホーム職員配置

区分	管理者(兼務)	世話人
常勤換算数	(1)	2.0
配置基準	1	2.0

福祉ホーム職員配置

区分	管理者(兼務)	管理人
常勤換算数	(1)	2
配置基準	1	1

(5) 利用者の健康管理

- ・毎朝、血圧、心拍数、体温を測り、その日の健康状態を把握し、異常がみられる場合は、看護師等の判断により、しかるべき処置をとる。
- ・個人記録簿に、バイタルチェックのデータを記録、毎日の推移を参考にして、当日の作業等の判断材料とする。
- ・毎日10:30と14:00の2回、体操やウォーキングを行う。
- ・作業に余裕のある日は、ストレッチや散歩、体力づくりに努める。
- ・月1回全員の体重、身長を記録し、肥満傾向の方や体力の劣る方などに対しては、本人との話し合いによる目標を設定して、改善を進める。
- ・協力医療機関との連携や関係機関、他施設とのネットワークづくりを通じて、適切な支援計画に反映されるよう、嘱託医、看護師等とともに取り組む。

(6) 栄養管理

- ・楽しく食事をすることを目標に、栄養価に優れた旬の食材料を取り入れ、季節感を出し食欲を高める献立に努めた。
- ・食事を通じ、味覚、嗅覚、触覚及び精神発達を助け、情緒豊かな人間性を育てることとする。

- ・衛生的に安全な食材を使用し、食中毒を起こさぬよう細心の注意を払っている。
- ・昼食の内容等については、嗜好調査を実施し、昼食時間を楽しみにされている利用者もおり、よく達成できたと思われる。
- ・毎月1回程度調理実習を実施し、自立に向けての調理体験を積むことで、意欲と自信につながるよう心がけた。

(7) 安全管理

- ・避難訓練は、毎月実施。総合訓練は、年2回実施。
- ・通報訓練、避難訓練等の職員の消火訓練は、年2回消防署の立ち会いで実施した。
- ・公用車による利用者の送迎を実施していること等から、それぞれの担当者が始業点検、終業時の確認などを行っている。

2 職員の処遇について

(1) 健康管理

今年度もヘルスサポートセンター鹿児島島の巡回健診による定期健診を実施した。（令和元年12月4日）

その他に、検便を九州保健ラボラトリーに委託して毎月1回実施した。（検査項目は、赤痢、0-157、0-26、0-111、サルモネラである。）対象者は、調理業務に従事する者、食事介助を実施する者、居宅介護事業従事者及びホーム管理人とホーム利用者である。

(2) 労務管理

青陵会就業規則等による。

(3) 研修

県障害福祉課、県社会福祉協議会、県社会就労センター、県障がい者共同受注センター、知的障害者福祉協会等主催の階層別、課題別あるいは人材育成を目的とした研修会に参加した。

内部研修

週1回の職員会議・事業所内研修・支援会議など

3 設備について

(1) ふたば脇本

敷地	1,327.36 m ²
建築面積	717.02 m ² （1階 387.02 m ² ・2階 330.00 m ² ）

(2) ふたば折多

(本棟) 敷地	1,779.03 m ²
建築面積	482.74 m ²
(作業棟) 敷地	1,375.00 m ²
建築面積	266.45 m ²

(3) グループホームふたば

敷地	1,641.31 m ²
建築面積	316.90 m ²

(4) 障がい者相談支援事業所ふたば

敷地	(ふたば折多作業棟と同一敷地内)
建築面積	15.22 m ²

4 施設の概要

(1) 施設の所在地

デイハウスふたば脇本：阿久根市脇本7176番地1
デイハウスふたば折多：阿久根市折口1627番地8
グループホームふたば：阿久根市折口1678番地14
障がい者相談支援事業所ふたば：阿久根市折口1627番地5

(2) 指定障害福祉サービス事業者

デイハウスふたば脇本（多機能型）：事業所番号4610600084（定員38名）
デイハウスふたば折多（多機能型）：事業所番号4610600092（定員32名）
グループホームふたば：事業所番号4620600108（定員10名）
グループホーム短期入所：事業所番号4610600183（空床利用型）
指定特定相談支援事業：事業所番号4630600171
指定障害児相談支援事業：事業所番号4670001389

(3) 事業開始年月日

デイハウスふたば脇本：平成18年10月1日
デイハウスふたば折多：平成20年4月1日
グループホームふたば：平成23年4月1日
障がい者相談支援事業所ふたば：平成24年4月1日

5 資金

訓練等給付費、介護給付費及び計画相談支援費等による個別給付並びに市町村の地域生活支援事業の給付による。（別添決算資料参照）

(1) 訓練等給付事業

・就労移行支援 ・就労継続支援B型
・共同生活援助（グループホーム事業）

(2) 介護給付事業

・生活介護 ・居宅介護 ・重度訪問介護 ・短期入所

(3) 計画相談支援

・サービス利用支援 ・継続サービス利用支援

(4) 障害児相談支援

・障害児支援利用援助 ・継続障害児支援利用援助

(5) 地域生活支援事業

・日中一時支援 ・移動支援事業 ・福祉ホーム事業

平成31年度及び令和元年度事業報告

社会福祉法人青陵会
阿久根市子ども発達支援センターこじか

I 施設の運営

年齢別	0歳児	1歳児	2歳児	年少児	年中児	年長児	計	定員	定員充足率
4月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
5月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
6月	0	2	8	10	8	7	35	40	88%
7月	0	2	8	10	8	7	35	40	88%
8月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
9月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
10月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
11月	0	3	8	10	9	7	37	40	93%
12月	0	5	8	10	9	7	39	40	98%
1月	0	5	8	10	9	7	39	40	98%
2月	0	6	8	10	9	7	40	40	100%
3月	0	6	8	10	9	7	40	40	100%
延べ	0	44	96	120	106	84	450	480	
構成率	0%	10%	21%	27%	24%	19%			

組別	つくしっこ	つくし	たんぼぼ	ひまわり	ちゅうりっぷ	ちゅうりっぷ	こすもす	こすもす	合計
	水 午前	火 午前	毎日 一日	毎日 一日	月火 午前	月火 午後	木金 午前	木金 午後	
4月	1	2	9	9	11	11	7	7	57
5月	1	2	9	9	11	11	7	7	57
6月	0	2	9	9	10	10	7	7	54
7月	0	2	9	9	10	10	7	7	54
8月	0	3	9	9	10	10	7	7	55
9月	0	3	9	9	10	10	7	7	55
10月	0	3	9	9	10	10	7	7	55
11月	0	3	9	9	10	10	7	7	55
12月	2	5	9	9	11	11	7	7	61
1月	2	5	9	9	11	11	7	7	61
2月	3	7	9	9	11	11	7	7	64
3月	3	7	9	9	11	11	7	7	64
延べ	12	44	108	108	126	126	84	84	692

(阿久根市～、出水市～、長島町～、薩摩川内市名)

職員数 14名 (3月末現在)

管理者	児童発達支援管理責任者	指導員 児童指導員 保育士	調理員	相談支援 専門員	合計
1人	1人	10人	1人	1人	14人

(1) 健康管理

○ 内科検診

令和元年6月26日 清水医師により園に於いて実施

令和元年10月30日 清水医師により園に於いて実施

○ 歯科検診

令和元年6月12日 丸山医師により園において実施

(2) 栄養管理

献立について

家庭調査票配布時にアレルギーを含め食に関する調査を行い、子どもたちが安心して食事をとれるように努めた。嗜好調査を実施し、献立に取り入れた。年度途中入所の子どもに対してもアセスメント面談時にアレルギーに関する調査、嗜好調査を実施し献立につなげた。

提供時の形状や食材の除去、代替食材、配膳について、子どもたちが無理なくまた楽しく食事に向かえるよう各グループとの連携も丁寧に行っていた。感覚過敏等への対応も子どもが安心して食を揚げられるよう同様に細かく連携していた。

療育の内容や行事に即して季節感等を出し、食への興味・関心が促されるよう努力していた。

衛生面について

発注先業者と連携をとり、安全な食材料を確保、使用し、食中毒を起こさないよう細心の注意を払っていた。

その他について

菜園での活動、クッキングなど食をテーマにした実践を取り入れることで、食に対する興味を持てるようになった。

行事食

5月 お父ちゃんと遊ぼうDay - カレーライス

7月 デイキャンプ - クッキング・カレーライス

7月 おとまり会 - クッキング・夏野菜カレー

10月 お父ちゃんと遊ぼうDay - 焼き芋、焼き魚、豚汁

12月 もちつき会 - 餅、豚汁

(3) 安全管理

各種防災訓練

避難訓練・消火訓練・通報訓練を6月と11月に毎月実施。

設備の点検

消防設備の点検・・・自主点検3ヶ月に1回

設備・遊具の点検・・・自主点検毎月、2ヶ月に1回一斉点検

(4) 療育

- つくしっこグループ (谷村、上之原)
阿久根市健康増進課と子育て支援センターのうさぎ教室と連動して実施。親子でじっくりと安心して遊べるよう発達に合わせた遊びの提供を心掛けた。
- つくしグループ (谷村、上之原)
阿久根市健康増進課と子育て支援センターのばんだ教室と連動して実施。こども達の身体や発達の状況を考慮しながら、親子で思い切り楽しめる遊びの提供と分かりやすく生活が展開していけるよう目指した。
- たんぽぽ (淵上、谷村、榎本、木山)
4月から10月までしっかりと親子で向き合えるよう楽しい遊びの提供を心掛けた。10月より母子分離で療育をスタートさせた。分離の不安な気持ちに寄り添いながら、遊びを思い切り楽しむ中で生活動作の意味が分かり自分からしたくなるよう働きかけていった。
- ひまわり (林、廣本、植村)
好きな遊びができて、強い自己主張やけんか等が見られるようになった。お友達のことを気が付きつつある。後期からはお当番活動や集団でのルールのある遊びを通してお友達と遊ぶこと、一緒に生活することが好きになるよう目指した。
- ちゅうりっぷ (飯尾、砂畑、藤田)
こじか単独で通園する子が4名、月・火は幼稚園・保育園との併行通園児5名を迎え集団療育活動を楽しんだ。準備から自分達で進めていったデイキャンプなど長期に渡る活動も見通しを持って取り組んでいった。
- こすもす (飯尾、藤田)
仲間と一緒に目標を共有し、おとまり会や運動会など大きな目標を達成させていった。内容についても話し合い活動を持ち自分達で決めていくことを経験した。子ども達自信が自分達の活動を大事にしていったように思う。

(5) 職員の処遇

1 健康診断

令和元年12月4日 鹿児島労働衛生センターによりデイハウスふたば
折多に於いて実施
検便

調理・調乳に携わる職員(赤痢、0-157、0-26、0-111、サルモネラ)

毎月 第3木曜日

他の職員(赤痢)年2回(赤痢、サルモネラ、0-157)

毎月 第3木曜日

全員(ノロウイルス)年1回

2 労務管理

青陵会就業規則によって管理

平成31年4月1日附則 第16条 年次有給休暇

令和2年1月1日附則 第17条 産前産後休業、第18条特別休暇
 第47条新設 ハラスメントの禁止
 令和2年4月1日附則 第33条 有期契約職員給与
 (生・介) 第15条 勤務時間

3 研修

スーパーバイザーによる療育指導を年4回。

7月 2日 ちゅうりっぷグループ実践指導
 9月26日 たんぼぼグループ公開療育への指導
 11月1日 こすもすグループ実践指導
 1月17日 ひまわりグループ実践指導

県総合療育センター・療育等支援事業による、相談員、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士による専門的療育指導・専門指導を年5回。

4月26日 こすもすグループ実践指導
 5月15日 ちゅうりっぷグループ実践指導
 7月19日 ひまわりグループ実践指導
 10月 8日 たんぼぼグループ実践指導
 2月19日 つくしグループ実践指導

園内研修

職員の気づきや疑問から学びにつなげることができたか、またその学びを深めることができたか、職務そのものが学びの機会になるようなOJT(オン・ザ・ジョブトレーニング)の視点をもって取り組むことができたか。

調理職員は、月1回法人給食会議に出席し、喫食状況による献立の見直しやケース検討を持ち、提供や形状について検討する機会を持てたか。

園外研修

時期	研修会主催者	研修内容
4月 21	鹿児島県通園事業連絡協議会	基礎研修 霧島市
5月	12	職員研修 鹿児島市
	24	鹿児島生協病院 フォンタン手術後の就園・就学
6月 8, 9	全国障害者問題研究会 九州ブロック	全障研 九州大会 福岡大会
8月	3, 4	全国障害者問題研究会 全障研 全国大会 長野大会
	25	県くらし保健福祉部、県通連 県発達支援事業所研修会 鹿児島市
1月 18, 19	鹿児島県通園事業連絡会	宿泊研修 志布志市
2月	8	伊佐市に新しい特別支援学校を… 子育て・教育講演会
	9	伊佐市に新しい特別支援学校を… ライフステージを通して…

II 設備

(1) 園舎

建築面積	499.05 m ²
敷地面積	2226.14 m ²

(2) 設備・備品

ブランコ すべり台 鉄棒
木製遊具 巧技台 屋内用すべり台
絵本 積み木 ブロック 紙芝居

III 資金の計画

通常経費は、受託金収入による。